

科学技術政策担当大臣等政務三役と総合科学技術会議有識者議員との会合 議事概要

- 日 時 平成24年11月15日（木）10：00～12：10
- 場 所 合同庁舎4号館第3特別会議室
- 出席者 加賀谷政務官、相澤議員、奥村議員、今榮議員、白石議員、青木議員、中鉢議員、平野議員、大西議員、倉持統括官、中野審議官、吉川審議官、大石審議官、

○ 議事概要

議題1. 「世界と一体化した国際活動の戦略的展開」に向けた今後の検討体制等に関する提言（科学技術外交戦略タスクフォース）について

- 相澤議員 最初の議題は、「世界と一体化した国際活動の戦略的展開」に向けた今後の検討体制等に関する提言でございます。科学技術外交戦略タスクフォースが回をかなり重ねて、この提言をまとめて頂きました。そこで、本日はその内容についての報告を頂きます。

<内閣府 匂坂参事官より説明>

- 相澤議員 只今の提言の説明について、御質問、御意見ありましたら、お願い致します。

- 大西議員 この性格ですが、提言はもうこれで出来上がっている訳ですね。この内容について修正するとか、そういうことではなくて、意見を言うということですか。

- 相澤議員 提言そのものは、こういう形で、タスクフォースでまとめられておりますので、それについての御意見を頂いておけば、今後の協議会設定についての検討に入りますので、そこに反映されるということになる訳です。

- 大西議員 分かりました。それでは、一番気になるのは「科学技術の国際活動」という言葉がキーワードとして何度も登場していると思うのですが、「科学技術が活動する」ってちょっとイメージが湧かないのです。やはり人が活動するのだらうと。だから、その主体をはっきりさせるということが重要なのかなと思います。そういう観点から言うと、科学者、或いは技術者が既に色々な格好で国際活動しているので、そういうこと全体をこれが捉えようとしているのか。

もう一つ、前から気になっているのですが、「科学技術外交」という言葉があって、この意味するところがそういった国際活動より少し狭い意味にもとれると。つまり「外交」というと「外交交渉」を意味するので、何か科学技術の分野で対外的な紛争なり、色々問題があって、それを交渉によって解決していこうという、科学技術の国際的な活動の中の一部をそれは形成しているということになるのではないかと。そのことに焦点を当てて論じようとしているのか。それとも、その基礎になる科学技術者、或いは科学技術分野における国際活動全般の促進という大きな土俵の拡充ということを論じようとしているのか、そのところを明確にする必要があるのかなという気はします。

- 白石議員 非常に重要なポイントで、先ず、最初の点はまさにおっしゃる通りですが、言葉としては「科学技術に関する国際活動」というのが表現としては多分適切で、そういう言葉と「科学技術の活動」というのは、ちょっとミックスアップしているというはおっしゃる通りだと思います。あくまでやるのは人間ですので。

それからもう一つ、「科学技術外交」というのは何なのかということで、実は基本計画の中では「科学技術外交戦略」という表現の仕方になっているのですが、この1年程アメリカの「サイエンス・ディプロマシー」ということを少し調べてみたら、アメリカの場合には、結局研究そのものは、もう既に極めてグローバルな視野の中で行われているので、「国際連携」ということは特に言わない。だから、非常にスペシフィックに「科学技術外交」ということを狭く捉えたので、それで十分なのだというのが基本的な考え方としてどうもある。だけど、日本の場合は逆でして、「科学技術外交」だけにすると、今まさに大西議員言われたとおり狭くなってしまってますので、「科学技術・国際連携」という形で提案させて頂いているとい

うこととございます。

そこで、「国際連携」というのはどういうことかと言うと、まさに例えば「グリーン」だとか「ライフ」の戦略協議会で議論する時に、どうも、ともすると「国際連携」というところが分かっているのか分かっていないのか知りませんが、ちょっと等閑視されると。そういうところにも目を配らないと、我が国の科学技術戦略、或いは政策というのは駄目なのではないかという、そういう問題意識もあって、「国際連携」という言葉を入れた。

それから、同時に実は日本の中では大学でも国の研究機関でも、色々な形で実は国際連携ということはやっている。ところが、そういうアセットがどういう、どこにどういうものがあるのかということ、どこもシステムティックにつかんでいないということも事実でございまして、そういうアセットというのは別に研究だけじゃなくて外交にも使える訳ですから、そういうものをともかく出来る限りシステムティックにつかむこともこの協議会では、これ非常に大変な仕事になりますが、一応ミッションとしてもいいのではないかと、そういう考え方でございます。

○大西議員 趣旨は、こういう分野の協議会を作るということについては賛成です。実は、売り込む訳ではないのですが、学術会議は伝統的に国際問題を担当するということになって、「科学者を内外に代表する」という定義付けがあるので、それで例えば世界科学会議、ICSUとかIAPとか、幾つかアカデミーの国際組織があったり、或いはGサイエンスのサミットの前に首脳向けの共同声明を出すとかということを担当しているのです。国際会議についても国から予算をもらって国際会議を共同主催してということもやっていて、そういう意味では広い意味での科学技術分野の国際活動の一端を担っているということではないかと思うのですが、是非そういう活動とか、それから前回も言いましたが、STSフォーラムが、これは民間ということになるのでしょうかけれども、非常に大きな国際的な科学技術関係の会議を日本でやっているという、そういう実績が幾つかあるので、そういうものをうまく踏まえた格好で戦略協議会運営されていくことは必要なのではないかと思いますので、是非宜しくお願ひしたいと思います。

○奥村議員 事務局に確認したい。2ページの一番上に「各戦略協議会において、国際的な視点に立った検討が必ずしも十分に行われていない。」という記述がありますが、これはきちんと、このタスクフォースが戦略協議会からヒアリングした結果が書かれているのでしょうか。私は、この「復興再生」と「ライフイノベーション」を担当させて頂いていますが、少なくとも私の記憶では全くそういう事実はない。ですから、その事実関係をまず確認したい。

それからもう一つは、ここの表現で2行目に「国際的な視点に立った検討が行われていない」というのは、正確でなくて「国際的な連携強化に関する検討が十分でない。」、これは事実だと思いますが、今の時代、研究開発を進める上で国際的なベンチマークも全く無視して不十分にやっているということはない訳で、これは、この3つの戦略協議会の活動実態に対して非常に懸念を持つ表現なので、ここの表現は正確に記述して頂きたいというのが1点。

それからもう一つ、既に議論が出ていることなのですが、結局これら科学技術外交を一元的に我々の内部で科学と科学技術と外交というのを捉えていく時に、次にどういうアウトプットを出していくのが重要。各分野ではすべからく国際的にもう展開されている訳で、それを束ねて、どう束ねた知恵を、情報を外交とそれから日本の科学技術の発展に使うのか、ここがキーだろうと思いますので、是非そういう枠組みで検討をして頂きたい。

○白石議員 これは事務局より私の責任ですので私のほうから申し上げますと、第1点目はおっしゃる通りです。「国際的な視点に立った」というのは多分言い過ぎだろうと思います。ただ、私自身、「ライフイノベーション」、「グリーンイノベーション」の戦略協議会、何度か出まして、どうも議論全体が日本の国内のことばかり議論しているということも事実なので、こういう少し強い表現になっていますが、表現としては「国際連携強化」というのが適切な表現だろうと思います。

それから、アウトプットは何なのかということとございますが、1つは、ある意味では基盤的なアウトプットということでは日本の国内に国際連携ということで科学技術外交だとか国際連携の推進に使えるアセットというのは、どこにどういうものがあるのかということ、これを国としてきちんと知っておくというのが、これがアウトプット、1つ非常に重要なもので、もう一つ

は実際に官邸、総理が色々な特に多国籍の場で、或いはバイの場でもいいと思いますけれども、外交的にイニシアチブをとる時の提案が出来るというのが、もう一つ非常に重要なアウトプットになるのではないかと思います。

○青木議員 今白石議員がおっしゃったように、これは既存のリソースを活用するために非常に大事な組織だと思うのですが、特にFIRSTの中間評価などで技術は出来上がりました。それでは、海外に進出する時にどういうフレームワークが国としてあるのかというのがはっきりしなくて、苦労していらっしゃる方もいらっしゃると思うので、そういう時に参考というか、頼りに出来る協議会になるなと思います。

1つお願いしたいのですが、この1ページの下に「諸外国の基礎研究力や産業競争力等を情報収集・分析が十分になされていない」とあります。御存じだと思いますが、JSTが物凄く量の調査をやっていて、私もあれ、消化不良になってしまうのではないかと感じて、意外と情報がある割に色々な会議の場に出てこないで、その既存の情報も是非活用して頂きたいと思います。宜しくお願いします。

○白石議員 私が言うと表現的にきつくなり過ぎるところがどうもあったみたいですが、ここも同じで、決して今まで全くやっていないということを言いたいつもりではございませんので、すみません。その辺の表現は、多分私が強く強く言うものですから、事務局の表現も強くなっているのだらうと思います。

○青木議員 確かに十分に活用されていないのも事実だと思います。

○中鉢議員 重複するかもしれませんが、確認のために。国際連携が十分にはなされていないのではないかと問題が1つあります。また、科学技術が外交に結びついていないという、2つの問題提起をされています。国際連携をして、我が国の科学技術力を強化して、これを外交に結びつけたらどうなるのだらうかと、こういうストーリーですね。スコープとして、国際連携の範囲というのはあくまでも外交に結びつくものにプライオリティーを置いてやっていくということでしょうか。

○白石議員 双方向です。だから、必ずしも外交だけじゃなくて、国際連携或いは日本の科学技術振興のために外交が使えるところがあれば、そっちのほうも考えましょう。

○中鉢議員 そうすると、色々なところで行われている国際連携が、省庁横断的なプラットフォームになっているのかどうか、或いは、グローバルなベンチマークが十分なされているのか、そういう検証も含めることが重要かと思いますが、国際連携、海外共同研究も含めて、これを司るところというか、把握するところは、こことみなしていいのでしょうか。その中の一部のアウトプットを技術供与なり、或いは提携するなりして、外交交渉の武器にすると。国際連携を代替してやっていきますと。

○白石議員 理想的に言うと、勿論CSTPがやれば、それにこしたことがないと思いますが、同時に現実の問題としては資源的に見て、資源的に見てということは、スタッフから言っても、それから予算から言っても、それだけの力があるかということ、残念ながら、そう胸張って「出来ます」というふうにも多分言えないのではないかと。むしろ、実際にアメリカの事例なんか見えていまして、非常にオーバーラッピングする形で、例えばデュアルユースのところはDARPAが見るだとか、ライフの関係は別のところを見るだとか、そういう形になっている訳で、やはり国として色々な部局でオーバーラッピングにあるところを見ていて、それを全部そういうところの人に集まってもらって話を聞くと、何となく、全部完全には見えないが、肝心のところは大体見えるというのが実態ではないかと思っています。ただ、それでも今よりはずっとよくなるだらうというのが私の感じです。

○中鉢議員 確かに、白石議員がおっしゃったような、諸外国との交渉の場で、各省庁が各々、都度時間を区切って会っていることが多いのが実情のようです。そうすると、各々がニッチになって、抜け落ちるところもある訳ですが、一体化したトータルでの、俯瞰的なというか、全

体的な視点に立った交渉ではなく、こういう分断された交渉というのは力をそぐのだろうと思いますが、最低限の国際連携に関してはここがやりますということを明確にして進めたほうがすっきりすると思いますが、どこまでをここがカバーすることを想定しているのでしょうか。

○白石議員 私はそれになりますと、極めてプラグマティックですので、出来ないものは出来ないだろうみたいなところがあるので、それは「予算とスタッフがバンと増えれば出来ますが」という。ですから、歯切れは、ここはあまりよくありません。ただ、中鉢議員の言っておられることは非常によく分かります。筋としては、そっちを目指すべきなのだろうとは思いますが。

○相澤議員 色々御意見があるかと思えます。これは、是非これからこの科学技術外交の協議会を作っていくところに反映させて頂ければと思います。そこで、私もこの検討課題は沢山出ている訳ですが、これを一つ一つ丁寧に検討することが戦略協議会の目的になってしまうと、本来の意とするところではないのではないかと思います。今日色々出てきたことで重要なのは、ここに出されている課題が色々なところでばらばらに検討され、或いは推進されている実状です。それをどう束ねて太いものにして外にも分かるような形に出すかというのが、この協議会の進める重要なところではないかと思います。どこまで出来るかは先程の色々な判断基準があるかと思えますが、是非その方向でやって頂きたいと思えます。それでは、提言についての御意見を伺うことは以上とさせていただきます。

議題2. 「科学技術外交・国際連携推進協議会（仮称）」における具体的な検討課題について

議題3. 「平成25年度科学技術関係予算の編成に向けて（案）」について

議題4. 平成25年度科学技術関係予算 基礎研究・人材育成関連施策及び基盤的施策の進捗・改善の確認について

(有識者議員の率直な意見交換の場とするため非公開)